

事業名 妙高フレンドキャンプ

趣 旨 学校と保護者、行政、青少年教育施設等が連携して、豊かな人間性を育み、高い志をもった人づくりを行うために、長期宿泊体験事業を実施する。
子どもたちについて、コミュニケーション能力を育成し、円滑な人間関係形成の素地を作るとともに、体験活動を通じて自然を大切にする心や社会性、たくましい精神力を育てる。

実施主体 妙高市教育委員会
独立行政法人国立青少年教育振興機構「国立妙高青少年自然の家」

参加対象 妙高市立新井南小学校、妙高小学校、妙高高原北小学校、妙高高原南小学校
杉野沢小学校

参加者数 105名

回 数 1回 **日 数** 7日

場 所 国立妙高青少年自然の家および妙高市内

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
	9月23日（日） ～29日（土）	友情・協力・挑戦・最後までやりぬく1週間 「妙高フレンドキャンプ」の開催	国立妙高青少年自然の家 専門指導員ほか
1	内容・方法	<p>平成18年度から取り組んでいる本事業について、本年度も青少年健全育成の一環として長期キャンプを以下のとおりを実施した。</p> <p>①6泊7日の長期キャンプの実施 参加した児童が所属する学校の枠を超えて班を編成し、生活を共にした。</p> <p>②豊かな体験活動推進事業との連携 学校教育においては「豊かな体験活動推進事業」（仲間と遊ぶ宿泊体験教室）の中で、国立妙高青少年自然の家や妙高市内をフィールドとして、自然、文化、歴史等の体験授業を行った。</p> <p>③チャレンジタイムの実施 最終日（土曜日）には、子どもたちが班で決めた体験活動（食事作り、秘密基地作りなど）を実施した。この活動に向けて、平日の夜は大学生スタッフによる指導も行いながら、班別に話し合いや準備などを行った。</p>	

成 果

- ・ 児童におけるフレンドキャンプの成果は以下の4点である。
 - ①本物の教材を使った体験学習による「学習意欲の向上」
 - ②様々な活動を通じて得られる「友だちとの協力」
 - ③あいさつができる、意見が言えるようになったなど「コミュニケーション能力の育成」
 - ④早寝早起きなど「生活習慣の育成」

課 題

- ・ 平成20年度は、本事業を市内全小学校（12校約300名）に拡大し実施する方向で準備を進めている。実施方法、運営体制、スタッフの確保などの課題があり、現在調整中である。

問合せ先 新潟県妙高市教育委員会 生涯学習課 笹井 電話 0255-72-1487